

4月の活動報告



29日（祝）こんぶくろ池春の観察会報告

大貫 遵子

雨の予報で心配しましたが、当日は曇りとはいえ爽やかな観察会日和になりました。参加者は、大人35名、こども4名、会員9名でした。案内役は、柄澤保彦さん。

順路は、管理棟前から草地を廻り弁天池、ズミの見られる木道をわたり、こんぶくろ池を廻って、ワタラセツリフネソウの群落地を廻り管理棟前に戻るコースです。

こんぶくろ池周辺の林は、コナラ・クヌギ・イヌシデなどの新緑による一年で一番爽やかな季節です。柄澤さん、古橋さんの挨拶後、入口近くの左側の満開後のウワミズザクラ、右側開花はじめたイヌザクラについて、「葉の後ろに二つの花外蜜腺があり、サクラは、花だけでなくこの蜜腺で、アリを呼び寄せます」「イヌと植物名につくのは、ヨクアルという意味と似ているが違うとの両方からくる命名です。ウワミズザクラのブラシ状の花の実は、お酒につけると美味しくなります」植物と昆虫の関りを説明される。市川さんの見つけたアオオサムシは、「羽がなく、ミミズを餌にしています」（トラップ調査でよく取れる）

冬の草刈り後の草原のジュウニヒトエは200株以上開花、コクサギの葉のニオイ、弁天池の流路には、キンランが咲き始めている。木道を渡り、上高地や戦場ヶ原にあるズミの1週間前にはうす赤い蕾から白い五弁花を咲かせているを間近に見て写真撮影したり、後方のズミの満開の様子に見惚れたる。「小梨ともよばれ標高の高い上高地や戦場ヶ原の冷温帯にあるものでこんぶくろ池のシンボルとなっています」こんぶくろ池では、平安時代から牧がつくられた牧の水飲む場の歴史があるなどのお話。ワタラセツリフネソウの群生地をまわり9月の花の咲く頃きてみたいとの感想あり。

エノキにくるゴマダラチョウ、外来種（中国産）のアカボシゴマダラチョウの幼虫やムシコブをみつけたり、普段では経験しない体験をしました。

こどもたちには、透明なケースを渡し捕れたクモ、コブシの種など説明される。柄澤保彦さんは、これまでネイチャーキッズの観察会を3年にわたって続けられ、夏休み自由研究の千葉県科学奨励賞を受賞された方の指導もされている。植物だけでなく、昆虫とのかかわりなど、生物多様性の生態系をやさしく楽しく解説されるのが魅力です。

今回は、人数も多く十分聞き取れなかった方もあり、申し訳なかったが、「楽しかった」「今日来てよかった、友人をつれてきたい」との感想をいただきました。

樹木の名札は、大変役にたって見学者の方には、安心感を与えています。

リーフレット、「カシニワフェスタガイドブック」などを準備し配布する事が出来、古橋事務局長には、お世話になりました。当日、参加された会員の方、お疲れ様でした。